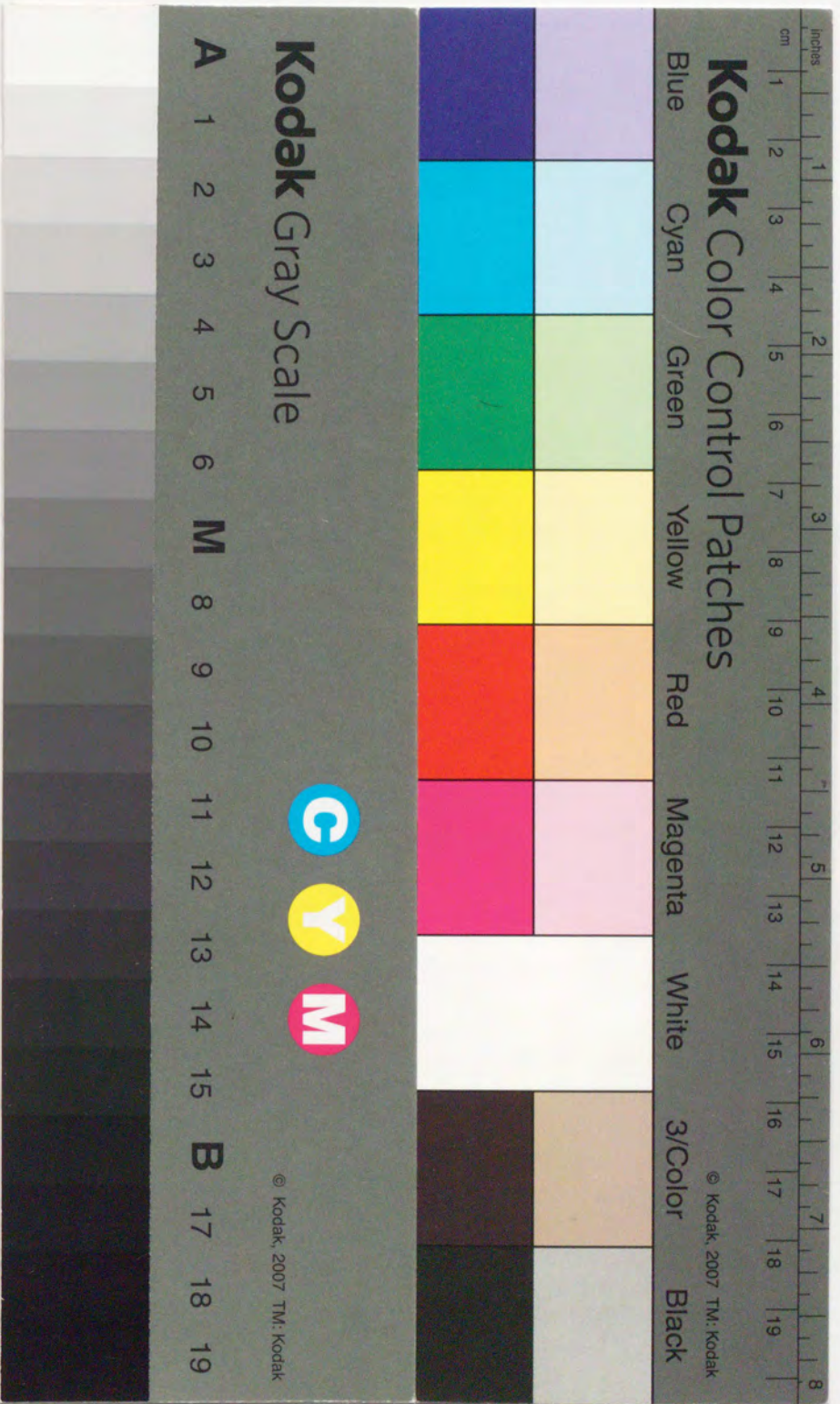
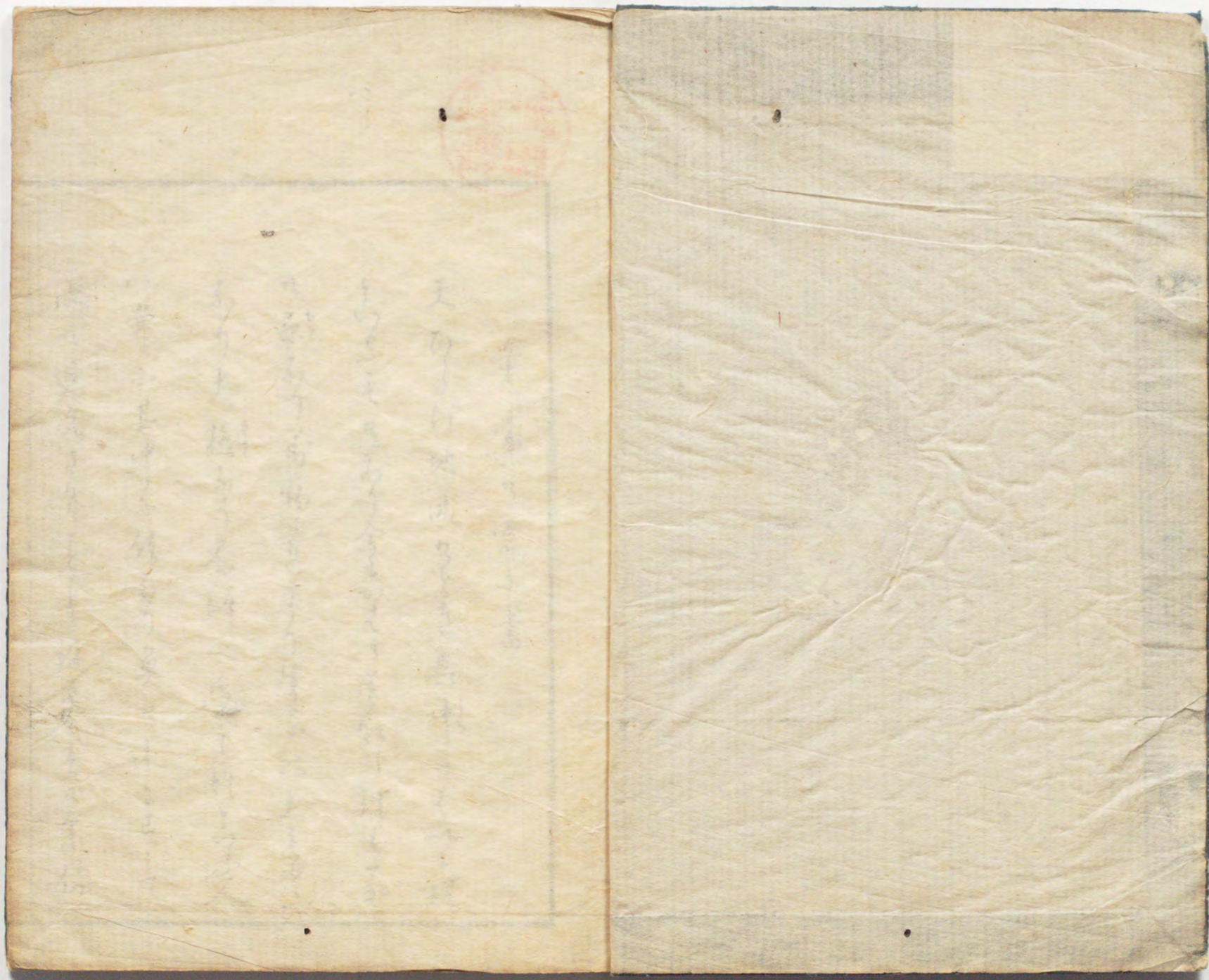








雪霽の需小書

天のけ地成るとき其の中一も以て理
と云ふ事あり今も此の理を以て理を氣
の原あり萬物に是より生ずる大なる
あり大極あり人解へて之を性といふ人
は常小其の中一はあり矣其の氷は是にて
氷に見えざるは諸君も亦余も

あゝも大極より出さるる其意立
たり

人性明事

性
心
氣
機
意
神

姓名、人種を記す欄あり

一心八人 脩りあり何れも此者より世に

心と正氣の別も然らず。正氣は志のきこ
鏡のこゝ。故に能く慮を盡し、神を成し
一氣を胸に下し有て是れ心と血とを
脈に流し、氣を流し、心と血とを
是れ心と氣とを流し、心と血とを
油断するも、氣を流し、心と血とを
有て是れ心と氣とを流し、心と血とを

心は神佛を敬ふ心——心は神佛を敬ふ心也此心合ふ心は神佛を敬ふ心也

六韜云是乃起乃心

其書ハ解方儒書ト差下
雖見等ハ同意ナリ

柔而靜恭而敬強而弱忍而剛此四者
道之所起

柔——静——恭——強——弱——忍——剛——

を云ふは、あつて、強弱、其の心、泥靜と云ふ
恭、中、敬、むと云ふ、容貌、を、云ふ、
事、此、敬、を、云、礼、外、以、身、を、修、ふ、事、
——弱、と、強、弱、と、云、物、に、應、じ、て、用、ふ、
事、是、乃、剛、也、云、云、云、云、云、云、云、云、
然、是、と、云、物、に、云、云、云、云、云、云、云、
底、の、心、不、剛、也、云、云、云、云、云、云、云、

志乃ふまきふ志ひさる妙也
人々々々行ひ所要也故小道と云ふ
学ひ心小無く守之は行ひ而も心
道より一意は場何り場と云ふ
心と云ふは世の事なり道といふは
行ふは道果なり道を学ふは行ふ
行まん欲死のやうな愛念執着の心

大敵あり吾惟此うろろろろ

之略也

端末未見人莫能知天地神明與物推移
是んんんん始終ももも是なり一氣なり
氣さるゝ一氣のさるゝおるゝさるゝなり
若し是を知る人ありそまもも知人なり
有人をいまる形ふありと云ふなり

予をこゝに居るは六と云ふはいつうもふふとて
知る天地神明と天地二氣此理を云
二氣有理則神あり明あり義也神は
陰陽不測を以てあり天地有理造化
の旨不測とて測り知る能はざる志を
以て物と爲るは故に其移るは此より
去るは與物推移とて天の道は此より夏

秋冬と物と生るは一とてまゝ收るは時
運の遠近とて地は道是より
微と守るは其微といふより心と能
守也前書ありとて人倫のわけを
能く云ふは又云

聖人存之應事機舒之弥四海卷
之不盈杯居之不窒宅守之不

以城郭

聖人^の心^は聰^と明^{めい}睿^{えい}知^ちの^四徳^{とく}を^示す
是^れ神^の不^可事^を物^を不^可達^を也^{なり}
之^れ一^の微^をを^示す^神聖^人
其^の事^を不^可機^を也^{なり}
之^れ是^れ神^の不^可事^を也^{なり}
其^の大^の剛^を不^可事^を也^{なり}
其^の大^の剛^を不^可事^を也^{なり}

是^れ神^の不^可事^を也^{なり}
中庸^の不^可事^を也^{なり}
意^を不^可事^を也^{なり}
酒^を不^可事^を也^{なり}

司馬法云

知^を終^を知^を始^を是^れ以^て明^を其^の智^を也^{なり}
始^を終^を知^を始^を是^れ以^て明^を其^の智^を也^{なり}

始終を察するに則ち神のふたふたを
ふりて明瞭なり是非を決し善惡を斷
理し諸事小成なり分るる萬事に通達
なる此智也天地の理をわきま神妙を
明るるなりこれみち小成なり天地の
ふりて善惡を断るなり
呉子云

道者所以反本復始

ふりて事物の理人なりとも不由所又子乃
親之君臣此義長知り序朋友信の如
きありともふりて之をふりて末に遂に理ふを
りて善惡の根本の理なりなり自ら求るの
義なり始に傳ふるに終るふりて理の
失ふるを始に傳ふる自ら求る也

是て藝道ふ人ありて其藝の
意をよきふるにあり是はありて
是ありてふるにありてふるに
ありてふるにありてふるに
ありてふるにありてふるに
ありてふるにありてふるに
ありてふるにありてふるに
ありてふるにありてふるに

佛

分ありて也心り至るに人これ位あり
乾道心知至るに聖人なる

愚案二

乾道心知至るに聖人なる何ぞ
もありてふるにありてふるに
故に乾道心中に有位ありて

即康節の心要放るに愛ありて

文古

老子所謂道德者去仁與義言之

古文

是則乾道之位也

坤道之心也

是心有了道心也

義心好義也

理心好理也

小心至小人也

利欲心也

多一事

嘉永甲寅初夏

内山氏
文外書

道 續

文 外

そふ君子あつ小人あつそふそふを抄子抄割
そふそふそふそふそふそふそふそふそふそふ
そふそふそふそふそふそふそふそふそふそふ
そふそふそふそふそふそふそふそふそふそふ
そふそふそふそふそふそふそふそふそふそふ
そふそふそふそふそふそふそふそふそふそふ
そふそふそふそふそふそふそふそふそふそふ

山ふきふきたけききけふもわんせしき鬼刺
鬼面合き黒塚ふ似合ききき都北き産
きき「張」張きききききききききききき
男山北女ききききききききききききき
ききききききききききききききききき
月日北ききききききききききききき
ききききききききききききききききき

東海ききききききききききききき
胡虜ふききききききききききききき
自ききききききききききききき
ききききききききききききき
ききききききききききききき
ききききききききききききき
ききききききききききききき
ききききききききききききき
ききききききききききききき
ききききききききききききき

Handwritten text in a rectangular frame, oriented vertically. The text is written in a cursive script, likely a historical form of English or a related language. The characters are somewhat faded and difficult to decipher precisely, but appear to be a continuous block of text.

Handwritten text in a rectangular frame, oriented vertically. The text is in a cursive script, likely from a historical document. The characters are difficult to decipher but appear to be in a non-Latin script, possibly from a European language written in a historical hand.

Handwritten text on a triangular piece of paper, oriented vertically. The text is in a cursive script, likely from a historical document. The characters are difficult to decipher but appear to be in a non-Latin script, possibly from a European language written in a historical hand.

